

小中学生や住民らが “本物”の音楽を鑑賞

自衛隊福島駐屯地音楽隊演奏会

9月16日、飯館中学校で自衛隊福島駐屯地の隊員らによる演奏会が行われ、小中学生や一般住民が迫力ある生の演奏を楽しみました。

子供たちに本物の音楽をと企画された村主催のこの演奏会には、村内の小中学生、一般住民、村自衛隊父兄会（下枝直一会長）会員や飯館ホーム



▲中学生と隊員らが息の合った見事な演奏を披露

この日、隊員らは行進曲や隊歌などのほか、飯館村民歌や今流行のアニメソング、ポップス、懐かしのコマーシャルメドレーなど11曲を披露。バリエーション豊かな演奏で会場を沸かせていました。



▲除幕を行った（写真左から）佐藤知事、黛まどかさん、菅野村長、佐藤幸夫村文化協会長

また、演奏会の最後には飯館中学校吹奏楽部との合同演奏が行われ、同中学校の高橋知宏先生の指揮で見事な演奏を披露していました。

演奏終了後、草野小学校6年の木幡美香さんが「すばらしい演奏をありがとうございました。みなさんのように心を動かすような演奏ができたらと思いました。また飯館村に来てくださーい」と代表してお礼の言葉を述べました。

黛まどかさんの句碑があいの沢に

佐藤栄佐久県知事も参加し、除幕

愛の句碑づくり事業の選者で俳人の黛まどかさんが村に贈った句碑が、このほど句碑となつて建立され、その完成を祝う除幕式が9月13日にあいの沢で行われました。

愛の句碑づくり事業は、「愛」をテーマに俳句を募集し、入選作品を句碑にして残そうと村が平成13年度から行っているもので、過去2年間の入選作品100句があいの沢に設置されています。

今回、黛さんから贈られた俳句は「会ひたくて逢ひたくて踏む 薄氷」。

この句は、1994年に第40回角川賞奨励賞を受賞した「B面の夏」という句集に掲載されており、村とあいの沢にふさわしいものをと、特に人

気の高いこの句を黛さんが村に贈ってくれました。式へは、黛さん本人をはじめ、県内外から黛さんのファンや俳句愛好者70人が集まったほか、「うつくしまYOSAKOIまつり原町大会」に出席していた佐藤県知事も急きよ会場を訪れ、一緒に除幕を行いました。

この日のあいさつの中で黛さんは「素晴らしい句碑を作っていたいただき感謝しています。この句碑を見る度に初心を思い出し精進していきたい」と話していました。

